



家内用紙集

中

9
3583
2



門口
3583
巻 2

家内用心集巻中

四民之部

○武士用公之事

武士ハ仁義文武を家業として義理を重
くする。仁義はけく下級教を重く。國家を守る
要なり。士ハ先々學を好み。又常々倫の道に
習いて。義理の本質と知。智仁勇の三徳を修
む。自ら君を忠告す。親孝行をす。家中
を憐れ。厚く愛するを教。常に婦人と小人乃
同言。儂言は用ひず。怒りて是を衣冠家財

昭和九年
九月二十八日
購求

家内月八集
不仁不孝不忠の極悪人といふ人さうぞ。此れは公
君といふ。皆公乃用いしやうあえて。知少なり。其の
極悪とおもひ。又常々忠孝の道を。考て学び終つぬ
ゆへよ。忠も孝も。仁義も情も。さういふ人から。あつて
とつた。武士をば。皆先祖より。の知り。存続と。と取
わけ。刑罰よ。さうして。悪名と。あつて。子孫悉く
断絶と。なり。眼お。信人の。見る。ところ也。或は。賭乃
猪首と。なり。又。情愛。多め。んが。好き。業瓜。なり。或は
女色の。難よ。あつて。子孫。いれ。う。う。た。身命。を。捨
つ。子孫。まで。結果。た。ん。る。も。情。じ。べ。出。し。じ。

まを方へ。引。移り。る。君。い。い。知。れ。ま。ざ。ま。と。を。ら。う。あ。り。る。ま。
と。う。り。て。我。等。ま。た。に。酒。名。に。耽。り。耕。作。の。旨。を。も。考。へ
ど。下。の。歎。き。ら。れ。し。も。う。り。る。は。て。酒。宴。を。興。へ。ま。
登。乃。教。生。瓜。好。ま。て。寒。と。異。さ。の。け。し。ま。ん。も。ら。れ。た。故
り。湯。の。大。病。と。あ。り。俄。に。周。家。と。り。だ。南。村。ら。る。を
か。る。人。考。と。多。く。用。い。て。さ。い。の。お。儀。に。周。家。と。り。だ
て。孫。坊。何。角。不。自。由。と。ゆ。い。し。も。も。と。妄。昧。し。て。
ま。け。ら。れ。る。に。お。内。の。考。瓜。と。り。或。は。不。義。邪
か。る。事。に。て。上。級。と。打。擲。し。て。う。り。り。或。は。殺。害。を
と。志。と。あ。り。し。人。と。り。も。あ。て。ま。た。る。も。し。て。情。さ。き

をば跡よしとさるやうに。廿附と云はせりて。能く
用ひ終り。眞加しけりて。必長久かり。おどて武士
方の。方おんりら。古来存受の書籍。物多ありと
し。とも。能く終り。おどて。益あり。故
し。せりて。思て。忠と。義理。づり。も。知り。福
と。るれ。も。さる。も。なく。長久。さる。べし。也。忠
を。め。く。情。ゆ。り。と。り。とも。この。罪。と。け。り。て。書。綴
り。を。し。ぶ。が。筆。の。跡。乃。つ。も。を。推。し。て。
自信。を。め。く。丁寧。に。及。後。して。此。一。巻。紙。敷。び。た
まり。必。武。運。し。け。り。て。長。久。は。家。富。子。孫。も。末。乃

警昌さん一助おとさるやうに云ふ而已

○農人用心之事

と。能。者。人。は。上。天。子。より。下。庶。人。お。至。り。て。生。か。る。
育。と。り。又。穀。と。作。り。物。て。納。り。も。の。さ。れ。ば。是。天。下
乃。養。と。り。の。た。り。故。り。古。来。傳。れ。政。事。に。も。耕
作。を。根。え。と。志。さ。る。や。う。に。志。す。れ。ば。也。初。は。勤
べ。さ。る。也。古。の。人。は。作。人。の。分。際。と。計。て。田。畠。は。少
し。う。ら。ば。は。ゆ。べし。は。と。れ。ば。を。れ。ま。す。に。耕。く。さ。さ。る
ゆ。は。能。實。の。そ。取。ね。さ。ら。す。た。り。の。也。又。分。知。に。多

く作らるる。はるしめり。あぐみ。あいのか。取収て
 揚成あがりあきまの也とあり。耕作くわさくのねあり。才さい一畝いっくの
 働とらく者と。牛うしるれよちあいより集あるれ。はる家いの
 の。下したこれこれままででははととくくけて。牛うしるれよちくく飼料くわりょうととは
 て。常とこにに正ただ位ばい実じつつつししれれ。必かな天あまのあまあありりとと
 よよれれいいつつももをを。念ねんはは。教しよるる付ついい。皆みないいささみみて。卒しゆ勞らう
 ををももととらられて。ああげげせせててたたくく働とらくくもの也。後のち一いち年ねんの
 計けいいい春はる耕こうあり。一いち日にちの計けいいい。熟じゆく作さくあり。ありありいいて。
 相あひあありり起おこす。一いち日にち一いち時じづづ。余よ計けいにに働とらくくといいく
 ども。年ねん中ちゆういいのの二百にひやく六十そくの時とき也。念ねんををももととらられて。六十そく日にち乃すなはち

勤しんあり。三年さんねんいいはは年ねんのの余よ計けい乃すなはち働とらくく。いいれれととく
 ははるる事ことと。家いへ風かぜととすすれれ。後のち一いち擧きよぎぎ移うつすすといいくく
 理り合あひひ。天あま地ちのの理りいいけけいい。ああははるる新あたら作しやうも
 かく。そのそのははるる耕こう作さくとと実じつののううて。仕し合あひひととははるるものものなり。
 ささららもも足ありりのの早はや換か水みづ換かいいわわりりくく周しゆ窮きゆうせば。天あま乃すなはち
 運とこいい循環じゆんかんして。凶きゆう年ねんいい豊ちゆう年ねんににううりりくくわわるるものものと
 ちちいいて。少すくしし退たいるるなく。せせぐぐみみ退たいははるる多おほ量りやうととははるるやや
 いいれれののささらら。ゆゆめめくく働とらくく時ときいい。向まむむくく仕し合あひひととははるるものものなり。
 もものものなり。むむ毎まい朝あさのの日ひ乃すなはち天あま氣きのの晴はれれと。雨あめ風かぜを見み
 たらたらいいて。ははるるののめめとと定さだむむべべ。又また老ろうくくああらられれいい。

其教務くは海峽の河は是地よりき氏の田島成賣
 て。進退法づき考もあり。是の耕作と至精也。候
 物始末致さるに分知の至るゆへ也。或い又せん分
 至く悟して。所も衣致までんが好く。人おのあり
 ともせば。君と親の難保もよと入つて。合分も
 なく。親親朋友の困窮と志むるも。世間の
 義理をもかきそ。金銀を偏く。か金ひ年々は
 として。形致らる也。或い人の欲も。かつるに米穀薪油
 法物の志ら愛たむと。法園へ回らる考あり。され
 る来んぞ。わく。我一人まきけん。公の目らる

わく。天地の理は背てをらる。合まれば。一代の内
 をも持ひて。或い破綻して。古切の穀物法物を海に沈め。
 又い凡庸の思辨よりわい。或いおつて。きとさん。さうりさ
 うけて。ちとる。も。是は。家業の耕作と。至精に
 て。身の前を。とれ。只。一。留まふ。か。ん。と。わ。い。く。
 却て。早く。は。なれ。子孫まで。迷致る。は。づ。の。也。は。西
 を考ふるに。家業を。殊あて。ち。あ。め。案。わ。い。い。の
 懐念よ。ま。く。悟して。も。中。と。さ。ら。る。ゆ。へ。か。が。く
 られ。その。終。と。子孫。は。あ。と。事。は。る。ん。悟。る。想。え。る。
 うの。あ。る。事。は。づ。も。あ。の。目。を。も。し。る。人。の。あ。る。

梅本の年ごふ一丈餘のつらぐ人出れどもつらふと本と
 かく楠本の年一寸とつらて。本本の多く有りがごとく
 又穢人のよびたるふ。投度の難焼よわい。又ある魚の難
 よわいでも年々く後世家業いれまじくして。相強
 くる年い。され皆互に傷くる。あひひる代のあつと
 ざいばかり。又商人のよびたれ。骨もきざりて多くま
 うけ。不時の利とくる人い。まこも母の虫難より難
 ふわいて。倒のころやさま。眼あは他人の志るころあり。
 海く通年者人の風候わくぬ。金銀多くおくる
 者も品あつとむい。もむがややして。他国より多く

借入りの人二妻のともあつた。挿後と公徳あり
 して。海と商人多し。ゆりねをわのあき人の。難焼の
 者も。我わづり焼のまじだ。地玉のわまてあつとみく
 焼ころゆる。傍念討よのさかりて。ほげれとる人多く。され
 皆自然の天理なり。あつてこれとある人の。現金よの安く
 賣。延命よのさあま。あつとある人。我あつと人も。
 まつとあつとや。考つと。二妻のいよく海とる。さい。其理
 くるくる。合のあつと。拂りぬをほらつとや。ふ人の
 は。ふ思つと。商人なり。ね又あつと切たつと。金銀。高物を
 かり入る。年中妻子も。まじく。家内を多くと。後世とる

悟ごを開ひらき。大安樂あんらくの人ひとと遊あそぶ。あつて空賢くうけん佛ぶつ菩ぼ薩さつのごん大だい親しん。早はや竟ま一切いっけつ宿しゆく生せいのく苦く故こ接けつてらく樂らくとあへ
そふのごん二につ。おんごん事じ故こたいて。そがをごんららなる
管くわん見けんをごんららて。少せうのごん脚けつふごんるごんれごんや。筆ふでにごんまごんせごんく
書かとごんむ

たふさくもいささものを一いっついっけいっらいっるは
ううらうもやとくとくああももそそのの舞まい
ななららぬかかななててももららいいななは
みみななととりりいいみみららぬぬかかららを

巻中終



教

